

# 談話能力の向上を目指した会話教育

—— ビジターセッションを取り入れた授業の実践報告 ——

中井陽子

キーワード

初対面の会話・談話能力・準備レッスン・ビジターセッション・反省会

## 1. はじめに

日本語学習者が日本語の母語話者と出会い、人間関係を構築していくには、文法能力のみならず、話し手や聞き手として会話に積極的に参加しながら、会話を展開していく談話能力も必要とされる。例えば、どんなに文法的に正確に自分の情報が提供できても、相手に同意したり、評価を示したりして、興味を持って聞いているという態度を示すことができなければ、相手に物足りない思いを抱かせたり、落胆させたりしてしまう恐れもある。このような点を考慮して、Kato [Nakai] (1999), 中井 (2003a), Nakai (2002) では、日本語の母語話者と非母語話者が話題の開始部と終了部に用いる言語的要素を分析し、また、中井 (2002, 2003b) では、会話展開の型や、話題の種類、話題開始部に用いられる質問表現の種類、共起する言語的要素について検証した。その結果、話題開始部においては、非母語話者があまり相手に対する質問をせず、相手から質問してもらう場合などが見られた。一方、話題終了部においては、非母語話者が分からない言葉を聞き返さず、理解不可能な話題を回避しようとして、唐突に話題を転換したり、相手の話にうまくあいづちを打ったり、評価表現<sup>1)</sup>などで

話題をまとめて適切に話題を終えられずに、沈黙したりするという傾向が見られた。

本稿では、特に、初中級レベルの日本語学習者を対象として、聞き返し、あいづち、評価表現、質問表現の使い方、話題・会話の始め方・終わり方などの会話への積極的な参加態度を示す談話能力の向上を図る会話教育の可能性について、初対面の母語話者とのビジターセッションを導入した授業の実践報告を通して考察する。

## 2. 先行研究

### 2.1 言語運用能力の向上を目指した授業設計

Jorden and Walton (1987), Jorden (1987) は、外国語学習において、事實的構成要素と技能的構成要素からなる fact-act の二分法 (fact-act dichotomy) が重要であると提唱している。まず、FACT の構成要素は、学習者にとって意味があるという点で、完全で、詳細で、客観的な言語学的・文化的な分析であるという (Jorden and Walton 1987 : 121)。そして、FACT の授業は、学習者の母語と文化を共有する教師 (base-native) によって、学習者の母語で行われるのが最も良いとしている (Jorden 1987 : 10)。それに対して、ACT の構成要素は、学習者が FACT の構成要素を内在化し、正確でかつ意味を持たせて使えるようになるために、目標言語で十分な量のドリルや練習を必要とし (Jorden and Walton 1987 : 121)、実際に言語を用い、質問し、ディスカッションするとしている (Jorden 1987 : 10)。そして、ACT の授業は、目標言語の母語話者である教師 (target-native) が一貫して目標言語で学習者とインターアクション

---

1) 中井 (2003d : 233) では、「評価表現とは、会話参加者が話題の内容や情報について、形容詞、形容動詞、副詞、動詞等を用いて、自らの意見・感想 (善し悪し、好き嫌い、価値、喜怒哀楽) を表す、または、その共感を表す発話である」と定義している。授業中、学習者には、「コメント」という言葉を用いて練習させた。

ンの活動を行うという (Jordan1987:10)。ただし、十分運用能力がある上級レベルの学習者に対しては、FACT の説明も目標言語の教師によって目標言語で行われるという (Jordan 1987:10)。

このように、言語的・文化的知識を得る FACT の授業と、得た知識を実際に運用して練習する ACT の授業の連携を十分意識して授業設計を行うことは、言語習得の上で重要であると考ええる。例えば、FACT ばかりの授業だと、知識注入型の受身的な授業になり、運用能力が身に付かず、得た知識を運用する楽しさが味わえないため、学習者の学習動機も上がらないであろう。また、反対に、ACT ばかりの授業だと、学習項目についての意識化・整理に時間がかかってしまい、学習効率が悪くなってしまいうであろう。

## 2.2 ビジターセッション

「ビジターセッション」とは、教師以外の日本語母語話者や準母語話者が「ビジター」として、学習活動の一環として日本語のクラスに参加し、学習者とインターアクションを持つ場のことである。その内容は、ビジターが、学習者と簡単な会話の練習をしたり、様々なテーマについて討論したりするものから、学習者の発表を聞いて質問をしたり、感想を述べたりするもの、あるいは、社会・文化的情報を提供したりするものまで、多種多様である。

ネウストプニー, J. V. (1982:147) は、ビジターセッションについて、「教室の場面を実際のコミュニケーションの場面に近づける」のに有効であるとしている。また、ネウストプニー (1991:11) では、「社会文化能力」、「社会言語能力」、「言語能力」についての説明や練習による徹底的な準備が必要であるとしている。また、村岡 (1992:117) では、モナッシュ大学においてインターアクションのための教育を目的としたコースの中で行われたビジターセッションについて報告している。このビジターセッションでは、メルボルンに滞在する日本人主婦をクラスに招き、学習

者が家族生活についてのインタビュー活動を行うという。ビジターセッションの前には、「話題の選択、それにそった言語面、社会言語面の手当て（挨拶、自己紹介、敬語の有無、会話の始め方、終わり方、あいづち、聞き返し、など）」を行ったとしている（村岡 1992：117）。このような日本語教育におけるビジターセッションについて、岡部（1997：35）は、「日本語運用能力だけでなく、非言語的な能力やストラテジー、日本の社会・文化についての知識を含めた、幅広い教育の場であると言える」とし、「教室外の実生活における日本人とのインターアクションにすぐ応用できる」という点から、その有効性を指摘している。また、高崎・古川（2000）は、中上級の学習者に対して、実生活で起こりうる状況と話題を設定して、ビジターとともにロールプレイを行うことの有効性について報告している。さらに、村岡（2001）は、ビジターセッションで上級の学習者がビジターとディスカッションとディベートを行う活動を通して、話す技能と聴く技能の向上を図り、ビジターセッションが授業と授業外での言語使用場面との橋渡しの役割を果たす点を指摘している。

このように、ビジターセッションの活用目的には、言語運用能力の向上や、ストラテジー教育、知識情報を与える場、協同活動の場、出会いの場など、様々なものがある。本稿では、Jordan and Walton (1987), Jordan (1987) が主張する「ACT の授業」の概念の一部を応用して、ビジターセッションを母語話者との実際の言語運用の場として位置付ける。そして、このようなビジターセッションを取り入れることによって、談話能力の向上を目指した会話の授業の可能性について検証する。

### 3. ビジターセッションを導入した会話の授業

#### 3.1 コース全体の構成と学習者の背景

早稲田大学国際部における Transnational Program の J4B クラス<sup>2)</sup>で、

---

2) Transnational Program とは、主に、米国の大学からの留学生を対象に1月—

2002年4月から6月までの春学期（1日2時間15分、週4回）に実践した会話の授業について報告する。学習者は、全7名（日系アメリカ人4名、中国系アメリカ人1名、中国系アメリカ移民1名、中国系オーストラリア移民1名）であった。この春学期には、主に、4月から『Total Japanese』<sup>3)</sup>の31課から40課までの初級後半の学習項目を扱った授業と、「インタビュー・プロジェクト<sup>4)</sup>」によって、文法、会話、漢字、読解、作文を総合的に学習させた。これらの授業と併行して、5月下旬から6月下旬にかけて、週3回程度、全13回にわたり、ビジターセッションを導入した。その目的は、4月と5月の2ヶ月間に学習した文法と会話を総合的に実践運用する機会を作り、談話能力の向上を図ることであった。

コース全体の評価は、クイズ（語彙、文法、漢字）25%、オーラルインタビューテスト30%、コミュニケーション・タスク（タスク、ビジターセッション）25%、宿題10%、出席・平常点10%を基にしてなされたが、ビジターセッションの評価は、コミュニケーション・タスクの中で行い、ビジターセッションへの積極的な参加態度、感想シートの提出、自己反省

---

6月まで実施される日本語集中プログラムであるが、1月—6月まで参加する者と、1月—3月まで参加する者と、4月—6月まで参加する者がいる。1月—3月までは、コミュニケーションを中心とした日本語集中プログラムと2週間の新潟県へのホームステイからなる。4月—6月までは、午前中、国際部の日本語プログラムと併設した日本語クラスに参加し、午後、「コア科目」で早稲田大学学部生と共に英語で専門科目を履修する。国際部の日本語クラスは、J1-J13（初級前半—超上級）までであるが、本稿で報告する「J4Bクラス」は、国際部の「J4Aクラス」に併設されていた初級後半—初中級のクラスである。学習者はみな基本的には、学生寮に滞在していた。本稿で取り上げた「J4Bクラス」での授業は、Transnational Programのプログラム・コーディネーターに活動内容を相談した上で、筆者が実施したものである。本稿執筆については、「J4Bクラス」の学習者の承諾を得た。

- 3) 早稲田大学国際部の初級—初中級の日本語クラスで用いられている教科書。
- 4) インタビュー・プロジェクトでは、学習者がテーマと質問項目を決めて、インタビューをし、それについてのレポートを書き、口頭発表をする。『Total Japanese』の39課と40課で扱われている。

文の提出を基に行った。

### 3.2 ビジターの募集方法

ビジターの募集は、早稲田大学国際部のビジター募集メーリングリストのメンバー、および、早稲田大学日本語教育研究センター主催の日本語教育学公開講座の受講生に対して行ったが、約60名の応募者の中から41名の国際交流に関心を持つ大学生と社会人がボランティアのビジターとして参加した。ビジターには、事前に、Eメールで、セッションの日時と概要を知らせたが、特に準備は必要なく、事前に指示したことは、国際交流パーティーなどで外国人と初めて出会った時にするような会話を、留学生と自由に日本語でして、お互いを知り、友好を深めてほしいということだけだった。また、このセッションの目的は、日本語の初級の文法を学んだ留学生が初対面の日本語母語話者と日本語で楽しく会話して、交流することを通して、よりよい人間関係を築く力を身に付けることにであると伝えてあった。また、各ビジターセッションでの会話終了後には、留学生との会話についての感想シートに記入してもらうことも依頼しておいた。

### 3.3 会話の授業の3段階構成

この会話の授業は、Jordan and Walton (1987), Jordan (1987) のFACT/ACT の概念を参考に、(1)準備レッスン、(2)ビジターセッション、(3)反省会という3段階から構成した。そして、この3段階を毎回繰り返し行い、談話能力の向上を図った。

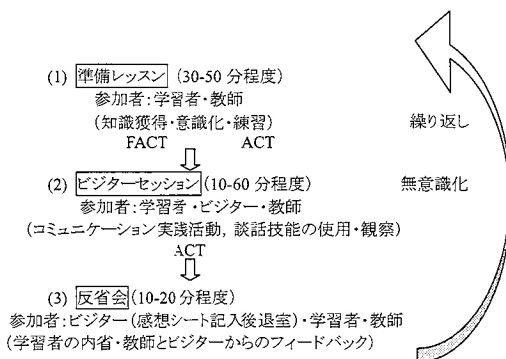
まず、(1)「準備レッスン」では、会話での談話技能の用い方についての知識を獲得、意識化し (FACT)、そして、教師の監督の下で、口頭運用練習を行う (ACT)。次に、「準備レッスン」の直後に行われるコミュニケーション実践活動 (ACT) としての(2)「ビジターセッション」で<sup>5)</sup>、

---

5) ビジターには、準備レッスンが終了する頃の時間を指定して、教室に来ても

「準備レッスン」で学んだ談話技能を実際に用いると同時に、ビジターが用いる談話技能について観察する。最後に、ビジターセッション終了直後に行われる(3)「反省会」で、学習者は会話感想シートに記入して自分の会話力を内省し、ビジターが書いた感想シートのコメントを読み、教師からのフィードバックを受け、次のビジターセッションに備える。この繰り返しの集中的に行うことにより、毎回の授業で新しい談話技能を身に付けると同時に、前回の談話技能を繰り返し用いて、それらの談話技能を無意識に使えるようにしていくという積み上げ式の過程を取った。

【図1】会話の授業の3段構成



(1)「準備レッスン」で取り上げた談話技能は、初対面の会話で使用頻度がより高く、重要だと教師が判断したものから順に提出し、学習者がそれらの談話技能を毎回のビジターセッションで繰り返し用いることで、無意識に用いていけるようになることを目指した<sup>6)</sup>。【表1】に、今回の準

らうことにしていたので、早めに来てしまったビジター以外は原則的に準備レッスンには参加していなかった。反省会も、会話感想シートを書いてもらった後は退出してもらったので、教師からのフィードバックや学習者との反省ディスカッションには参加していなかった。

- 6) 教師の側には、初対面の会話の談話技能項目の全体像があったが、実際に、毎回のビジターセッションでの学習者の様子を見て、談話技能の弱点を補っていくという形を取った。したがって、授業のはじめに学習者に対しては、

備レッスンで扱った談話技能を提出順に示した。なお、準備レッスンで用いたハンドアウトは、【資料】として載せた<sup>7)</sup>。

【表1】準備レッスンで取り上げた談話技能

1. 聞き返しの仕方【資料1】
2. 会話の進め方（初めて会う人と話す時の注意点）【資料2】
3. 会話の型（相手に質問してもらう、お互い質問し合う、相手について質問していく）【資料3】
4. いい聞き手になるために（あいづち・評価表現）【資料4】
5. 質問の仕方【資料5】・質問リストの作成
6. いい話し手になるために【資料6】 （文と文をスムーズにする・順番に説明する・説明をやわらかくする・動きをつける・感情を入れる・まとめる／評価する）
7. 話題の始め方・終わり方【資料7】
8. 会話の始め方・終わり方【資料8】
9. 目上の人と話す（敬語）

「日本人と初めて会って自由に話す時のスムーズな話し方の練習をする」とだけ伝えておき、具体的な談話技能の項目については提示しなかった。

- 7) 【資料1】は学習者が「会話が分からない時はあいづちだけ打って分かっているふりをすることがある」と述べていたのを参考に筆者が作成した。【資料2】の「初めて会う人との会話でよく出てくる話題」は、三牧（1993：51）より引用したものである。【資料3】は中井（2002, 2003b）を参考にした。【資料4】は富阪（1997：107）、Kato [Nakai]（1999）、Nakai（2002）、中井（2002, 2003a）を参考にまとめたものである。【資料5】は斎藤（1989：45-44）、佐々木（1998）、中井（2002, 2003b）を参考にした。【資料6】は初級で習う文型を筆者が談話技能という観点からまとめたものである。【資料7】と【資料8】はKato [Nakai]（1999）、Nakai（2002）、中井（2002, 2003a, 2003b）を参考にまとめたものである。なお、準備レッスン用ハンドアウトは、学習者の前回のビジターセッションを見て、必要な項目を取り上げ、毎回のレッスンで一部ずつ配付した。



ビジターセッションの難易度は、会話参加者の人数と会話をする時間によって、易から難へと変化させ、学習者が次第にビジターセッションに慣れることができるように配慮した。まず、会話の相手の人数であるが、学習者7名対ビジター1名から始め、回を重ねるごとに、2, 3名対1名, 1対1になるようにし、最終日には、1対2にした。また、会話時間は、はじめは10分間とし、その後、20分間、30分間と徐々に長くして、後半には60分間大学のカフェテリアでリラックスして行われることもあった。また、ビジターセッション中の教師の役割は、主に、各グループを回って、会話を観察し、語彙や話題に困っていたら助言することであった。また、英語で話したがる学習者やビジターがいる場合は、日本語で話すように口頭で促した。そして、会話の中で気づいた文法の誤用や談話技能の改善を要する点等についてメモをして置き、反省会の時に学習者に口頭でフィードバックした。

今回行ったビジターセッションは、主に2種類ある。一つは、準備レッスンと反省会との3段階で行なうセッションで、初対面のビジター<sup>8)</sup>と自由に日本語の会話をし、会話の実践練習を行うとともに、お互いを知り、友好を深めるものである。もう一つは、学習者が各自のテーマについて発表するのを見て、ビジターが質問やコメントをした後で、小グループに分かれて、それぞれの発表内容についてディスカッションをするものである<sup>9)</sup>。会話の授業のスケジュールは、【表2】の通りである。

---

8) 日本に留学している学習者は、教室外の様々な場面で、初対面の日本語母語話者と出会う確率が高いと思われるので、ビジターは、初対面の日本語母語話者に限定した。

9) これは、5/30, 6/25, 6/27に行なった学習者による口頭発表の3日間のみである。このセッションには、初対面のビジターセッションに一度参加したことのあるビジターでも参加できるようにした。

【表2】会話の授業のスケジュール

5/30 (木)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジターセッション①：受身形を使った話の発表をビジターAが聞いて質疑応答する。 (ビジター1名, 20分程度)</li> <li>2. ビジターセッション②：ビジターAについて自由に質疑応答する。 (ビジター1名, 10分程度, 7対1)</li> <li>3. 反省会：あいづち, 評価表現, です/ます体</li> <li>4. ビジターセッション③：ビジターBについて自由に質疑応答する。 (ビジター1名, 15分程度, 7対1)</li> <li>5. 反省会：聞き返し, ビジターA, Bの違い。感想シートを作成する。</li> </ol>
6/3 (月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：聞き返しの仕方 (ハンドアウト使用【資料1】)</li> <li>2. ビジターセッション④：自由会話をする。(ビジター3名, 20分程度, 2, 3対1) タスク：分からない言葉を聞き返してメモし, 提出する。</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。会話の進め方 (ハンドアウト使用【資料2】)</li> </ol>
6/4 (火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：会話の型, いい聞き手になるために(あいづち・評価表現の使い方) (ハンドアウト使用【資料3】【資料4】)</li> <li>2. ビジターセッション⑤：自由会話をする。(ビジター3名, 20分程度, 2, 3対1)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/6 (木)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：質問の仕方 (ハンドアウト使用【資料5】) 質問シートを作成して提出する。</li> <li>2. ビジターセッション⑥：自由会話をする。(ビジター4名, 20分程度, 1, 2対1)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/10 (月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：NS-NSの会話を聞き, 文字化資料を見て談話技能を分析する。 (ハンドアウト・オーディオテープ使用)</li> <li>2. ビジターセッション⑦：自由会話をする。(ビジター4名, 20分程度, 1, 2対1) いい話し手になるために (ハンドアウト使用【資料6】)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/11 (火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：いい話し手になるために (ハンドアウト使用【資料6】)</li> <li>2. ビジターセッション⑧：自由会話をする。(ビジター3名, 30分程度, 2, 3対1)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/13 (木)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：NS-NNSの会話を聞き, 文字化資料を見て談話技能を分析する。 (ハンドアウト・オーディオテープ使用) 話題/会話の始め方・終わり方 (ハンドアウト使用【資料7】【資料8】)</li> <li>2. ビジターセッション⑨：自由会話をする。 (ビジター5名, 60分程度, 大隈庭園前カフェにて, 1, 2対1)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/17 (月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：尊敬語・謙譲語復習 (市販教材ハンドアウト使用)</li> <li>2. ビジターセッション⑩：敬語ハンドアウトの問題の答えあわせをする。 自由会話をする。(ビジター3名, 60分程度, 2, 3対1)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/20 (木)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準備レッスン：会話の終わらせ方 (ハンドアウト使用【資料8】)</li> <li>2. ビジターセッション⑪：自由会話をする。(ビジター6名, 30分程度, 2対1)</li> <li>3. 反省会：感想シートを作成する。</li> </ol>
6/25 (火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジターセッション⑫：インタビュー・プロジェクトの発表をする。 (ビジター6名, 一人約10分間, 全4名発表) 全体で質疑応答をする。(10分程度) グループ別にディスカッションをする。(15分程度)</li> </ol>
6/27 (木)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジターセッション⑬：インタビュー・プロジェクト発表 (ビジター2名, 一人約10分間, 全3名発表) 全体で質疑応答をする。(10分程度) グループ別にディスカッションをする。(15分程度)</li> </ol>

### 3.4 準備レッスンとビジターセッションの授業

以下、聞き返し、あいづちと評価表現、会話の型・質問表現、話題の始め方・終わり方についての準備レッスンとビジターセッションについて説明する。

#### ① 聞き返し（6月3日）：

まず、相手の話に対して「分からないことをはっきり伝える」から「分からないことを伝えない」までの段階別表現リスト（【資料1】）を教師が見せて、学習者がいつもどの表現をどのような時に用いているかを確認する。また、教師が意識的に未習語彙を用いて体験談を話して、学習者に聞き返しをするように促す。この時に、早口で言ったり、難しい単語を用いて、学習者が聞き返してくるのを少し長めに待ったり、文脈から未習語彙を類推させて、聞き返しをさせないようにしたりする等、聞き返しの仕方のような様々なパターンを与えて、学習者に反応させる。次に、学習者同士がペアになって、自由に会話しながら、お互いに聞き返しをする練習を行う。そして、その直後のビジターセッションでのタスクとして、ビジターが用いる知らない言葉を聞き返して、その意味をメモしておき、セッションの終了後に語彙リストを作って提出するように指示し、聞き返しを積極的に行う動機付けをする。

#### ② あいづちと評価表現

1回目（6月4日）：まず、どのようなあいづちや評価表現を聞いたことがあるかについて、学習者同士で話し合わせる。そして、「丁寧・普通・カジュアル」というレベル別に分けたあいづちのリストと、「へー、それはよかったですねえ。」「へー、すごい。」等の好ましい状況に対する評価表現、「あー、それは大変ですねえ。」「うわー、ひどい！」等の好ましくない状況に対する評価表現のリスト（【資料4】）を与えて用法を確認する。次に、学習者の一人に昨日あったことについての話をさせて、教師があいづちを打つのを他の学習者に観察させ、後で感想を言わせる。次に、教師が話すのに対して、学習者全員があいづちを打つ練習を行う。この

時、教師の期待するタイミングであいづちを打たなかった場合は、ポーズを長くとり、学習者を見つめて、あいづちを促すようにする。この段階では、全員が同時に大声であいづちや評価表現を言われるので、やや不自然なやりとりになるが、リズムとタイミングを覚えるには効果的ではないかと思われる。その後、学習者同士がペアになり、自由に会話をしながら、あいづちや評価表現の練習を行う。そして、その直後のビジターセッションのタスクとして、ビジターの話に対してあいづちや評価表現を実際に使ってみるように指示する。また、3、4人で話している際に、ビジターが他の学習者の話に対して用いているあいづちや評価表現をよく観察し、その真似をして自分も使ってみて、タイミングやバリエーションを体得するという事も課す。

2回目（6月10日）：初対面の母語話者同士の会話の音声テープを聞かせ、何でも気づいたことを話し合わせる。次に、その会話の文字化資料<sup>10)</sup>を見ながら、あいづち・評価表現・質問表現などの箇所印を付けさせ、どのようなタイミングで使われているのかを考えさせ、その後のビジターセッションに備えさせる。

### ③ 会話の型・質問表現

1回目（6月4日）：3種類の会話の型のリスト（【資料3】）を見せ、話す相手によって話し方を色々変えるということ意識化させる。まず第1は、ビジターから頻繁に質問してもらうというものである。これは、学習者が緊張して自信がない時や、ビジターが頻繁に質問してくる人の場合である。第2は、学習者とビジターがお互いに質問し合うというものである。できるだけ同じ話題を長く続け、お互いの共通点を見出すように話して、相手に興味を持っているという態度を示すのがよいと教師から助言する。第3は、学習者がビジターについて質問していくというものである。これは、インタビューする時や相手があまり話さない静かな人の場合であ

---

10) Kato [Nakai] (1999), 中井 (2003a) より抜粋。

る。質問する時は、前の話題とのつながりに気をつけるように指示する。  
2 回目（6月6日）：会話を進める・いい人間関係を作る等の質問表現の機能や、疑問詞の文型をリスト（【資料5】）で復習し、口頭練習を行う。そして、初対面の相手にできる質問のリストを、男女・大学生・社会人別に作成させ、話題の準備をさせる。

#### ④ 話題の始め方・終わり方（6月13日）

初対面の母語話者と中級レベルの非母語話者の会話の音声テープを聞かせ、その文字化資料<sup>11)</sup>を見ながら、話題の展開や、あいづち・評価表現・質問表現の仕方について気づいたことを話させる。この時に使う会話のテープは、スムーズにやり取りが行われている会話と、うまくあいづちなどが入れられず、沈黙したり、唐突に話題を変えたりしているものを選び、会話の進め方に対する意識を高めさせる。その後、話題の始め方として、「あー」「えっー」などの相手の注意を引く表現、接続詞等を、話題の終わり方として、評価表現・まとめの言葉・あいづち・沈黙・笑い等を挙げてまとめたリスト（【資料7】）を渡し、学習者の意識化をはかる。そして、その後のビジターセッションで、それらの要素を使ってみると同時に、ビジターがどのように話題を開始し、終了しているかを観察させる。

#### 4. 学習者の反省文と授業評価

上記のコースがすべて終了した後に、学習者に英語で反省文と授業評価<sup>12)</sup>を書かせたが、その中から談話能力についての部分を和訳して、分析する。なお、引用した文の後に学習者 A-G のアルファベットを付けた。

まず、会話の授業から学んだこととして、「挨拶の仕方や日本人と日本語で会話する方法が分かった。(A)」という指摘があった。また、聞き返

11) Kato [Nakai] (1999), 中井 (2002) より抜粋。

12) 授業評価は、教師が今後の授業改善の参考にするために作成して、授業最終日に行ったもので、国際部のコースエバリュエーションとは別に実施した。

しについては、「分からない言葉をビジターに聞くことによって、日本語が上達した。(A)」というものがあつた。このことから、ビジターに分からない言葉を聞き返して語彙リストを作成するというタスクを課したため、積極的に聞き返しをする動機付けができ、学習者も語彙を増やすことができたということが伺える。また、初対面の会話については、「突然会つた人と話すのは大変な努力がいるということが分かつた。(B)」というものがあつた。

準備レッスンとビジターセッションとの組み合わせについては、「準備レッスンで習つたものを全部組み合わせ、できるだけビジターセッションで最も自然な状況を作り出すようにした。色々なお勧めの話題リストや語句の他、語彙が分からない時にどうするかなどを教えてもらったのは、とても役に立つた。(B)」、「準備レッスンとビジターセッションをセットにするのは役に立ち、分かりやすかつた。(D)」というものもあつた。このことから、学習者自身、準備レッスンとビジターセッションを結び付けて、準備レッスンで扱つた談話項目を意識して用いようとしたことが分かる。反対に、「準備レッスンとそれぞれの新しい人と話すビジターセッションをつなげるのは、少し難しかつた。話した人はみな性格が違うので、人によって話しやすい人とそうでない人がいた。(C)」というものもあり、初対面の会話の難しさを示すものもあつた。

全体の印象・感想として、「今回のビジターセッションでは、新しい語彙と文型と話すスタイルを『本当の世界』の状況の中で練習する機会を与えてくれた。クラスでクラスメートとの練習によつても学べるが、日本人との本当のインターアクションとは比べものにならない。(D)」とあり、ビジターとのやり取りが会話の実践として学習者にとって有意義であり、会話学習への動機付けにもなつたことが伺える。また、「自分の日本語の会話への自信と理解を増すことができた。(D)」というものもあつた。さらに、以下のようなコメントをした学習者もいた。

正直に言うと、ビジターセッションのはじめの頃は、日本語で知らな

い人と話すということにはあまり乗り気ではなかった。まだ自分が自由に話せるほど十分言語を知っているとも思っていなかった。それに、言葉を知らなかったり、日本語で自分の考えを正しく表現できなかったりして、会話の途中でだまりこんでしまったりしたとき、すごくこちない気持ちになった。しかし、だんだん、ビジターセッションが進むにつれ、正しい文法や語彙を使うようにはじめにゆっくり考えてから話すことがなくなり、自分が随分速く話していることに気が付いた。たくさんの文法ミスをしていたのは分かるが、会話をするのが少し簡単になった。(E)

このように、ビジターセッションを取り入れることは、学習者の自発性を高めるのに効果があるのではないと思われる。また、毎回のビジターセッションの繰り返しの中で、「ビジターは私の弱点である文法能力を向上させる機会を与えてくれた。(G)」や、「あいづちがほとんど無意識的な反応でできるようになった。(E)」、「日本語の話し言葉を話したり聞いたりする能力を向上させてくれた。(E)」とあるように、文法能力や談話能力の向上を学習者自身も自覚していた。

最後に、今回の会話の授業について、「知らない人と話したくない日もあるので、ビジターが毎日来るのはあまりよくないと思う。(A)」等、集会的に初対面の人と会うことの心理的な負担を指摘した学習者が7名中3名(A, D, E)いた。また、「コース全体を通して、もっとビジターセッションが良かった。毎週金曜日等にしたら、その週に新しく学んだ文法を復習し、組み合わせる使うことができると思う。(F)」と、コースのはじめから、文法などの授業と組み合わせ、総合的、かつ、長期的にビジターセッションを行ってほしいというものが7名中4名(A, D, E, F)いた。さらに、ビジターセッションの時間についても、「20分だけというのは短すぎて、毎回いつも同じことばかり話して終わっていた。(D)」というものもあった。これは、時間的制約があるのと、段階的に徐々に会話時間を長くしていくという配慮をしたためであるが、今後、改善する余地は

あるといえる。

## 5. まとめと今後の課題

以上、会話への積極的な参加態度を示す談話能力の向上を目指した会話の授業の例として、準備レッスン・ビジターセッション・反省会を取り入れた授業の実践報告をした。特に、聞き返し、あいづち、評価表現、質問表現、話題・会話の始め方・終わり方などの談話能力に焦点を当てて、その意識化を図り、実践と観察、反省という流れを持つ授業の可能性について述べた。準備レッスンで取り上げた談話技能 (FACT) を、その直後に行われるビジターセッションというコミュニケーションの場で実際に使用し (ACT)、その後の反省会でそれについて考えるという授業の流れを繰り返すことにより、学習者の談話能力の向上のみならず、会話をする事への動機付けと自信にもつなげられるという点で、今後もこのような会話の授業をコースの一環として取り入れるべきではないかと思われる。

今後の課題としては、学習者の反省文にもあったように、初対面のビジターと話すビジターセッションを4週間毎日のように集中して行うのは、学習者にとって心理的負担になることもあるので、週に1, 2回, 2, 3ヶ月の間にじっくりと行う等の授業計画の改善が挙げられる。また、反省会で学習者とビジターによる会話の感想シートの記入を実施したが、今後は、ビジターセッションでの会話を録画し、それを学習者と見ながら改善点についてフィードバックしたり、談話技能の上達過程を確認したりすることによって、学習者が自分の談話能力について再認識する段階を設ける必要がある。また、初対面のビジターセッションだけでなく、一度会ったビジターと再び会って話す「再会セッション」を設けるなどして、ビジターとのより良い人間関係の構築を可能にするようなセッションを実施することも検討していきたい。最後に、今後、会話教育のための談話技能の項目を整理し、学習者に合わせて適宜取り出し、的確に指導できるようにすることが最も重要な課題であると思われる。ビジターセッションは、あ



くまでも、そのような談話能力の向上のための会話教育の一手段であるので、その他の効果的な指導法や教室活動を開発していくことも、今後の課題としたい。<sup>13)</sup>

謝辞 本稿は、2003年3月の日本語教育方法研究会（JLEM）でポスター発表したものに加筆・修正を加えたものである。発表の際に貴重なご意見をいただいた方々と、本稿執筆の際にご助言いただいた早稲田大学の佐久間まゆみ教授に感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 岡部真理子（1997）「ビジターセッションのすすめ」『月刊日本語』8：34-39 アルク
- 斎藤里美（1989）「日本語教育における疑問文・質問文—コミュニケーション上の機能からみた日本語教材の課題」『日本語学』8.8：41-56 明治書院
- 佐々木由美（1998）「初対面の状況における日本人の「情報要求」の発話—同文化内および異文化間コミュニケーションの場面」『異文化間教育』12：110-127 異文化間教育学会
- 高崎三千代・古川嘉子（2000）「ビジターセッションにおけるロールプレイの効果—1998年度海外日本語教師長期研修『聴解口頭表現』における実践」『日本語国際センター紀要』10：33-49 国際交流基金日本語国際センター
- 中井陽子（2002）「初対面母語話者／非母語話者による日本語会話の話題開始部で用いられる質問表現と会話の理解・印象の関係—フォローアップインタビューをもとに」『群馬大学留学生センター論集』2：23-38 群馬大学留学生センター
- （2003a）「初対面日本語会話の話題開始部／終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』16：71-95 早稲田大学日本語研究教育センター
- （2003b）「話題開始部で用いられる質問表現—日本語母語話者同士および母語話者／非母語話者による会話をもとに」『早稲田大学日本語教育研究』2：37-54 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- （2003c）「談話能力の向上を目指した会話授業—準備レッスン・ビジターセッション・反省会を取り入れた授業を例に」『日本語教育方法研究会誌』10.1：20-21 日本語教育方法研究会
- （2003d）「話題開始部・中間部・終了部で用いられる評価表現」『日本語教育

---

13) 会話分析活動と演劇プロジェクトを取り入れて談話能力の向上を図った総合的授業の実践報告については、中井（印刷中）を参照。

- 学会秋季大会予稿集』233-235 日本語教育学会
- (印刷中)「談話能力の向上を目指した総合的授業—会話分析活動と演劇プロジェクトを取り入れた授業を例に」『小出記念日本語教育研究会論文集』12 小出記念日本語教育研究会 (2004年3月出版予定)
- ネウストプニー, J. V. (1982)『外国人とのコミュニケーション』岩波書店
- (1991)「新しい日本語教育のために」『世界の日本語教育』1:1-14 国際交流基金日本語国際センター
- 三牧陽子 (1993)「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析」『日本語教育』103:49-58 日本語教育学会
- 村岡貴子 (2001)「大阪大学短期留学特別プログラム OUSSEP 上級日本語クラスにおけるビジターセッション2000年春学期の実践報告」『大阪大学留学生センター研究論集多文化社会と留学生交流』5:113-126 大阪大学留学生センター
- 村岡英裕 (1992)「実際使用場面での学習者のインターアクション能力について—「ビジターセッション」場面の分析」『世界の日本語教育』2:115-127 国際交流基金日本語国際センター
- Jorden, Eleanor. 1987. The target-native and the base-native: Making the team. *Journal of the association of teachers of Japanese* 21.1:7-14
- , and A. Ronald Walton. 1987. Truly foreign languages: Instructional challenges. *The annals of the American academy of political and social science*, ed. by Lambert, Richard D and Alan W. Heston 490:110-124
- Kato [Nakai], Yoko. 1999. Topic shifting devices used in Japanese native/native and native/non-native conversations. University of Minnesota: MA thesis.
- Nakai, Yoko Kato. 2002. Topic shifting devices used by supporting participants in native/native and native/non-native Japanese Conversations. *Japanese Language and Literature*. 36.1:1-25.

#### 参考資料

- 岡野喜美子・長谷川ユリ・大塚純子・塩崎紀子・アン松本スチュワート (1994)『Total Japanese』早稲田大学
- 富阪容子 (1997)『なめらか日本語会話』アルク

【資料 1】聞き返しのしかた

分からないことをはっきり伝える

すみません、ちょっと意味が分かりません。  
 ～、～、ちょっと分かりません。  
 もう一度言っていただけますか。  
 もう少しゆっくり話していただけますか。  
 ～ってどういう意味ですか。  
 ～って何ですか。  
 ～って英語で何ですか。  
 ～？ (repetition)  
 ～… (repetition)  
 はい？  
 えっ？  
 ん？  
 はあ？  
 あの一…  
 それは、～ということですか。(paraphrase, show examples, etc.)  
 うーん…  
 Pause  
 ええ、ええ、ええ…。(後で意味が分かるまで聞き続ける。)  
 (必要な分かる情報だけ聞き取る。／だいたいの情報だけ分かる。)

話題をかえる

分からないことを伝ええない

【タスク】 ビンタナーが使っていた知らないことを聞き返して、意味をメモしておきましょう。ことばのリストをみんなで作ります。

【資料 2】会話の進め方 (初めて会う人)

全体的に

- 丁寧(ていねい)に話しましょう。
- \* 丁寧語 (Refined Expressions です/ます体)
- \* 尊敬語 (Respectful Expressions おーになりますか。)
- \* 謙譲語 (Humble Expressions おーしましょうか。)

距離 (distance)

相手の様子を見て、近づきすぎないように。

名前

- はやく覚えましょう。
- 忘れた時：例) あ、すみません。お名前は…
- 例) お名前、もう一度おねがいします。
- 例) ～さんでしたっけ。

話題 (topic)

- \* 相手と自分の同じ点を探すようにしてみよう。
- \* 相手のおもしろいところを見つけた時は、それについてどんどん質問していきましょう。
- \* フライベートなことを聞きすぎないようにしましょう。(結婚、子供、家族、恋人、籍料)
- \* 聞かれて答えたくない時は、次のようなやわらかい言葉で逃げましょう。
- 例) 想像におまかせします。／秘密です。／どうでしょうねえ。
- \* 次のような direct な言い方はやめましょう。
- 例) 言いたくないです！／それは失礼です！

初めて会う人との会話でよく出てくる話題：

- 大学生活、授業、サークル活動、キャンパス、バイト、休みの日、遊び
- 所属：学部、学科、サークル、学年
- 居住：自宅 / 下宿、通学、現在居住地
- 共通点：共通の知人、共通体験
- 出身：出身地、出身校
- 専門：研究テーマ、卒論、修論、専攻
- 進路：就職、進学
- 受験：受験、塾

【タスク】 その他、どんな話題があるでしょう。(例：趣味、食べ物、旅行)

【資料3】会話の型

- Q&A ①NS->NNS 相手に質問してもらう。  
(察知して自信がないとき/相手がたくさん質問してくるとき)  
②NS<->NNS お互いに質問し合う。(聞かれたら聞き返す。)  
③NNS->NS 相手について質問していく。  
(インタビューのとき/相手が静かなタイプするとき)

①NS->NNS: 相手が分かっているか見ながらゆっくり説明していく。

- \* 分からない言葉がある時:  
やさしい言葉で言いかえる。  
相手に助けてもらう。
- \* まだ話したい時:  
あー/えっと/えー/そうですね。  
ちょっと待ってください。/なんて言うんでしょう。
- \* 分からない言葉を書く時:  
～は日本語で何ですか。/何というんですか。
- \* その他のストラテジー:  
ジェスチャーを使う。/絵をかく。

②NS<->NNS: なるべく同じ話題を深く続け、お互いの同じ点を見つけるようにする。

- \* 相手について興味があり、話をおもしろく聞いているという態度を見せる。  
聞きかえし/確認の質問/コメント/くりかえし/あいづち/笑い/目を当
- \* 質問されたら、①のように答える。
- \* 質問する時は、前の話題とのつながりを考える。  
例) 専攻/趣味を聞かれたら、専攻/趣味を聞きかえす。  
例) サッカー → 野球 → サーフィン

③NNS->NS: ②のように質問するといふ。話題がころころ変わらないように気をつけろ

- \* 相手が分からない言葉を使った時は、早めに分らないことを伝える。  
例) ～・・・/～って何ですか。/もう一度言っていただけですか。  
/もう少しゆっくり話していただけませんか。

【資料4】いい聞き手になるために

あいづちの仕方

ていはい	ふつう	ガジェアル
はい、/はい、はい、/はい、はい、はい、 ええ、/ええ、ええ、/ええ、ええ、ええ、 そうですか。 そうなんですか。 そうですよね?/そうですね。 そうですね?/そうですね?/そうですね。 その通りですね。 本当ですか?	へー、/ねーねー、 /ねーねーねー、 あー、/あーあー、 /あーあーあー、 はあー、/はーはー、 /はーはーはー、 うん、うん、うん、 うん、 へー、 あー、/えー? まあ! あらー、 なるほど、/なるほどねえ。	うん、/うーん ふんふん、/ふんふんふん、/ふーん どう、/どうそう、/そうそうそう、 そうか、/そうかあ、 そなたのか/そなたの、 そうだね?/そうだね、 そうだろうね?/そうだろうねえ、 そうね?/そうねえ、 そうでしょうね?/そうでしょうね え、 そうだね?/そうだねえ、 そうよね?/そうよねえ、 そういうわけか、 その通り、 ほんとう?/まじけ うそ、/うそだらう?/うそでしょ?

タイミング:                      うん                      ああ                      うん                      あー、そうですね、  
いいですねえ。

コメントの仕方

へー、それはよかったですねえ。/あー、よかった。  
わー、いいですねえ。/わー、いいねえ。/わー、いいなあ。  
へー、すごいですねえ。/へー、すごい!/へー、すごいなあ。  
へー、おもしろいですねえ。/へー、おもしろい。/へー、おもしろいなあ。  
うわー、おもしろそうですねえ。/うわー、おもしろそう。/うわー、おもしろそうですねえ。  
へー、それは楽しいですねえ。/へー、楽しい。/へー、楽しいなあ。  
うわー、おもしろいですねえ。/えー、おもしろ(わ)よねえ。/へー、おもしろだねえ。  
えー、うらやましい。

あー、それは大変でしたねえ。/あー、大変!  
それは残念ですねえ。/あー、残念。  
うわー、それはひどいですねえ。/うわー、ひどい!/えー、ひどいなあ。  
えー、それはだめですねえ。/えー、それはだめ(だ)よね。  
えー、それは困りますよねえ。/えー、それは困る(わ)よねえ。/えー、それは困るなあ。  
やだ。/やだー。

\* その他、自分の意見を少し言ってみる。

**タスク** ビジターの話を書く時、あいづちやコメントを使ってみましょう。  
三人で話してみ、ビジターのあいづち、コメントをよく見て、  
まねしていっしょに言ってみましょう。

【資料 5】質問の仕方

質問の機能 (Function)

1) コミュニケーションをしやすくするための質問

A. 確認 (Confirmation)

1. 会話を進める：相手のメッセージを分かりやすくするための質問  
例) A. あんまり好きじゃないですねえ。  
B. えっ、何がですか？ / だれが？ / どうして？ / 田中さんが？ / パナナが？
2. 確認の質問：相手の質問を確認するための質問  
例) A. 行きますか？  
B. 払いですか？ / 最前ですか？ / 明日ですか？ ええ、行きますよ。
3. 相手の理解 (comprehension) の確認：話し手のメッセージを分かりやすくするための質問  
例) A. 地下鉄でトークンをなくしちゃったんです。あ、トークンって分かりますか？
4. 同意をもとめる (Seek agreement)  
例) そう思いませんか？ / そうですか？ / そうでしょう？

B. 意味についての質問：(聞き返し)

例) ~ってどういう意味ですか？

2) いい人間関係・社会関係を作るための質問

1. 相手に興味があるという態度を見せる。  
例) 御出身はどちらですか？  
例) 英語がお上手ですね。どこで勉強なさったんですか？
2. 相手に興味を持ってもらう話題を出す質問  
例) 最近に新しいショッピングモールができるって知ってますか？  
例) 昨日、ワールドカップ見ましたか？
3. 相手・相手のもの、話題についての事実 (fact) / 情報 (information) を聞く質問  
例) 趣味は何ですか。 / お仕事は？  
例) スキーがお好きなんですか？
4. 相手の意見・感想についての質問  
例) アメリカの音楽についてどう思いますか？  
例) ワールドカップ、どの国が勝つと思いますか？

質問のかたち

1) 疑問詞 (Wh-questions)

例) いつ、どこ (どちら)、だれ (どなた)、何、どれ、どっち (どちら)、どの、どんな (どのような)、どうして、どのくらい、どうやって (どのように)、etc.

2) ~か？ / ね？ (Yes/No questions)

例) 学生さんですか？ / 明日、行きますね？

3) ~？ (Rising intonation)

例) 学生さんです？ / 明日、行くでしょう？

【タスク】 ビジターのことをいろいろ聞いてみましょう。

【資料 6】 いい話し手になるために  
自分の話の仕方

1. 文と文をスムーズにする。  
~と、~。  
~たら、~。  
~て、~て、~。  
~けど、 / ~けども、 / ~が、~。  
~ないで、 / ~せずに、~。  
~時、 / ~前、 / ~後、 / ~てから、~。  
それから、 / ~して、 / ~それで、 / ~で、 / ~でも、 / ~だから、 / ~そしたら、 / ~それでも、~。 etc.

2. 順番に説明する

はじめに、~、つぎに、~、それから、~、で、~、その後、~、最後に、~

3. 説明をわかりやすくする

~んです。  
~んですけど、~。  
~ですけどー。  
~ですけどね。  
~ですよ。  
~ですね！

4. 動きをつける

~てくる / ~いく  
~し始める / ~し出す / ~し終わる

5. 感情を入れる

~てしまふ / ~ちゃう  
~てもらう / ~てくれる / ~てあげる  
~さされる  
~させると

6. まとめる / 評価する (summary & Evaluation of your story)

だから、もう大変なんですよー。  
でも、楽しいですけどね。  
それで、失敗しちゃったんですけどー。  
で、おもしろいなあと思ってた。

【タスク】 自分の話をおもしろく相手に話してみよう。

【資料7】話題の始め方・終わり方

始め方

1.相手の注意を引く表現  
あのー／えー／えっとー／あっ／ねえ！

2.接続詞 (connectives)  
でも／じゃ／で／ところで  
実は

3.話を変える表現  
話は変わりますが／話を變えてすみませんが、／話がそれますが  
ぜんぜん関係ないんですが

4.話を思い出した時の表現  
あっそうだ！／そういえば／そうそう！／あっちょっと思い出したんですけど  
それで思い出したんですけど

5.話を戻す表現  
話をもちますが／さっきの話ですが

6.質問する時  
～んですか。—はい、そうです。—あ、そうですか。—続き。

7.自分から情報を出す時  
私、～んです (よ)。—あ、そうなんですか。—続き

受け方

話す人：あのー、えっとー／～て、～て、／～んですけど、／それで、それから  
聞く人：あいづち／コメント／質問／前のめりで聞く／笑い／うなづき

終わり方

コメント (Casual speech) 例) よかった。／すごい。／大変。  
まとめの言葉／あいづち／沈黙 (silence)／共同発語／笑い  
スローテンポ／Final-vowel-lengthening

【資料8】会話の始め方・終わり方

始め方

はじめまして。～と申します。どうぞよろしくお願いたします。  
(相手はしなくてもよい。頭を下げる。名刺を渡してもよい。)

\*パーティーで会った場合：

例) すみません、私、～と申しますが、お名前をおうかがいしてもよろしいですか。

例) 失礼ですが、どちらからいらっしやいましたか。

例) これ、おもしろいですね。～は好きですか。

例)

例)

\*道や店で会った場合：

例) あついでですねえ。／よく降りますね。

例) この店にはよくいらっしやるんですか。

例) あのー、すみません。すてきなカフェですね。どちらで買ったんですか。

例)

例)

終わり方

1.会話の終わりを言う。

では／じゃあ／それでは／それじゃあ／そしたら

では、そろそろお時間ですね。ありがとうございました。

2.会話の感想・あいさつ

お会い／お話しできて、本当に良かったです／たのしかったです。

おもしろいお話ありがとうございました。

今日はお忙しいところ、わざわざ来てくださりまして、ありがとうございました。

今日はお忙しいところ、お時間を作ってくださいまして、ありがとうございました。

紙版、がんばってください！

では、失礼いたします。

3. 次に会う約束をする。

じゃあ、また。

また、今度、お会いしたいです。／またお会いしましょう。

またお会いできるのを楽しみにしております。

また、会っていただけますか。いつごろおひまですか。

【タスク】 会話の始め方を考えてみましょう。